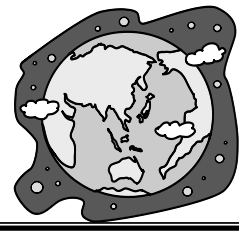


そ 宇

ら 宙



令和5年度 国際交流の集い

杉並区立済美教育センター 指導主事 梅林 伸幸

令和5年12月9日（土）、杉並区役所会議室にて「国際交流の集い」が行われました。「日本語指導」を受けている外国人児童・生徒及び帰国児童・生徒の学習の成果を発表するとともに、児童・生徒の自信と学習意欲の継続につなげることをねらいとして実施しています。

今年度は、小学生6名、中学生6名が発表しました。スピーチのテーマは、日本での生活のこと、努力していること、日本と外国を比べて感じたこと、日本に来て感じていること、自分の国の紹介、家族への思い、生きていることの大切さなどでした。

多文化に触れたからこそ感じた疑問や面白さ、そして日本で生活すること、関わり合いをもつこと、日本語を学ぶことの大変さを素直な思いで話してくれました。当日に向けて一生懸命勉強し、何度も練習してきたことが伝わってきました。また、学校での様子、楽しそうに日本語を学んでいる姿、学習の場の雰囲気垣間見ることもできました。



【緊張しながら、一人ひとりスピーチしました】



【賞状を受け取りました】

間・家族・日本語指導講師・学校関係者等からの大きな拍手に包まれました。また、休憩時に多くの人たちが交流する和やかな様子も印象的でした。

開催に当たり、各校の校長・副校長、担任の先生には格別な御配慮と御支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

子どもたちのスピーチは、国や言葉を超えて人と人とが結びつく大切なメッセージです。それぞれ内容が深く、考えさせられるものでした。スピーチを行った子どもたちは、自分の伝えたいテーマを自分の言葉で自由に表現していて、表情豊かな姿、堂々と心を込めて一生懸命にスピーチする姿に胸を打たれました。

スピーチの後には、会場に集まった80名を超えるスピーチをした仲





広がる友達の輪

杉並区立杉並第二小学校 主幹教諭 一戸 誠二

私は今まで何度も海外からの転入生を担当してきましたが、学級の子供たちは言語の壁を難なく乗り越え、あっという間に仲良くなる様子を何度も見てきました。身振り手振りや遊びを通じて楽しい時間を共有する様子を見ていると、異なる文化や言語をもつクラスメイトがいることはとてもいいことだと実感しています。

しかし、たくさんの友達に囲まれながらも、言語の違いによる悩みを抱えている児童は少なくありませんでした。一生懸命日本語を習得するために頑張っているけれど、友達との会話の中で自分だけが分からない言葉があったり、どんな言葉で自分の考えていることを伝えていいのか分からない場面があったりすると、もやもやとした気持ちになると相談してくれた子もいました。今年担任したAさんも、そのような不安を抱えている様子でした。Aさんは4年生の頃、イギリスから転入してきて1年が経ちます。最初は鬼ごっこをして楽しく遊んでいる様子でしたが、友達の言っていることを理解したい、自分も会話を楽しみたいという気持ちがだんだんと強くなっていました。

日本語教室では授業に必要な言葉や、日常生活に必要な言葉を計画的に指導していただいています。漢字や難しい言葉の習得に苦手意識があるAさんが楽しく学習できるよう、クロスワード問題を用意していただいたり、本人の理解度に合った課題に取り組んでいただいたりしました。特にAさんが自分の話を聞いてもらったり、質問したりして日本語指導の先生とマンツーマンでコミュニケーションをとっていることが日常生活でも役に立っていると感じます。今では友達と放課後遊ぶ約束を自分からすることも多く、自信をもって日本語でコミュニケーションをしている様子をたくさん見かけます。

また、毎回指導したことや授業中の様子を細やかに伝えしてくださるのも大変ありがたいです。自分が授業を行うときにどんな支援が必要なのか、考えることができます。多様性を大切にすることが学校に求められている中、日本語指導の先生方のサポートはとても心強く思っています。



支えと成長、そして自信へ

杉並区立杉並第九小学校 主任教諭 石原元気

Bさんは、4年生の3学期から本校に通っています。5年生になって、Bさんと出会ったときには、日本語でのやり取りが難しかったため、翻訳機を活用しながら意思疎通を図っていました。翻訳機や、身振り手振りを使ってコミュニケーションを図ろうとするクラスメイトの姿、日本語での授業を理解しようと、一生懸命に学習に取り組む姿に感心したのを覚えています。一方で、「もっと、子供たち同士がスムーズに自分の思いを伝え合えるようになるには…」、「Bさんの頑張りを支えていくには…」と支援の難しさ、もどかしさを感じていました。

そのような中、日本語指導が始まり、友達とは翻訳機を使わずにコミュニケーションをとったり、楽しそうに笑い合ったりする様子が見られるようになりました。1学期の終わりには、拳手をして自分の考えを伝える姿も見られました。その成長とBさんの頑張りにクラスみんなが感嘆し、教室には大きな拍手が鳴り響きました。その他にも「Bさんが〇〇を話せたよ!」「Bさんが発表してくれたよ!」「Bさんすごい!」とたくさんの賞賛の言葉をもらっていました。

日本語指導では、ゲーム的な活動を取り入れたり、日常的な会話表現から学習に繋がったりなど、様々な工夫をしてくださっていました。日本語と中国語の漢字の表す意味の違いを学習することや読みのタイムアタックには特に意欲的に取り組んでいました。そのおかげで、日本語に苦手意識をもつこともなく、前向きに取り組むことができている。指導後に「どうだった?」と聞くといつも「楽しかった!」という答えが返ってくることから、充実した時間を過ごしていることが伺えます。

数カ月間の出来事でしたが、日本語指導を通して、自分の努力や成長を、周りに認められることで、自信をもち、さらに大きな成長を遂げる姿をみることができ嬉しく思います。このように、Bさんの成長が見られたのも、本人の努力と日本語指導の大きな支え、クラスメイトの声掛けがあったからだと実感しています。Bさんに真摯に寄り添い、温かくご指導して下さったこと心から感謝しています。



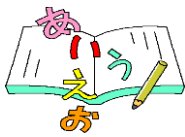
「日本語指導の先生との大切なノート」

杉並区立東原中学校 主任教諭 千葉 晃

昨年5月末に中国からCさんが本校に転入。ほどなくして、ほとんど日本語を解せないことがわかり、手続きを経てCさんは7月上旬から日本語指導を受け始めることができました。日本語指導担当の先生には週に二度来校いただいております。毎回の授業後に大学ノートへ丁寧なメモを残されています。それにより担任の私も具体的な指導内容を把握することができており、Cさんのクラスでの様子などをそのノートに書きとめ先生への情報提供としています。これまでの教員経験のなかで日本語が話せない生徒を、自らのクラスに数名受け入れてきました。その際（他地区の）日本語の先生がご指導されていたことを思い出したものの、具体的にどのような指導をなさっていたのかを認識していなかったことに「今」気づきました。

私はこれまでにCさんのふるさとの中国へ何度か旅をしたことがあります。中国語は会話集を見ながら発音してもなかなか通じないことを知っていました。ですから区から貸与されたポケット翻訳機、タブレットによる翻訳サイトを駆使、メモに漢字で書いて意思疎通を行っています。このやりとりの結果から、日中間の共通の文字が漢字であることを改めて感じました。

Cさんは恥じらいがあるのか、他の生徒となかなかコミュニケーションをとりにくい状況が長らく続きました。1月上旬にプリントを手渡したときCさんは私に「ありがとうございます」と言いました。その時には担任として安堵し、日本語指導の先生に感謝を申し上げたいと思った次第です。幸いにもクラスに中国語会話ができる生徒がいて、大いに助けてもらったこともプラスに働きました。海外旅行の経験から言語の異なる環境で暮らすCさんの心境を察しつつ、常に接しています。目下、浅草方面への校外学習の事前学習を実施しているところです。担任の心配をよそに、生徒同士のほうが工夫しながら接することができているようで、校外学習当日、班のメンバーとどのようなやりとりがあったのかを生徒から聞くのが楽しみです。そう遠くない将来、Cさんに中国語を教えてもらうという「密かな夢」を抱きつつ成長を見守っています。



成長と感謝

杉並区立大宮中学校 主幹教諭 島村雄大

初めての日本で言語はおろか、周りに友達もいない状況の中、大宮中学校に入学してくる。どれほどの不安や心配を抱えて入学するか、担任として何ができるか真剣に考えました。まずは挨拶を必ずしよう、毎日声懸けやジェスチャーを交え、関わる時間を増やそう。そして、Dさんが安心して生活できる学級にしようと考えました。

入学式当日は英語科に付きっきりで説明をしてもらい、何とか過ごすことができましたが、これから本当に大変だなという実感が湧きました。ただ、そうした私の不安も学級の生徒とDさん自身の姿勢で解消され、Dさんは現在もほぼ欠席なく明るく元気に学校に登校しています。

まず学級の生徒達です。入学式の次の日、自己紹介をする前に私から彼の状況を説明しました。すると、生徒は自分の知っている単語とジェスチャーを交えて、積極的にコミュニケーションを図りました。彼がサッカーや日本のアニメが好きで、そのアニメの登場人物を描くことがとても上手なことで、などみんなで彼を知ろうとしました。結果Dさんを通じて、他の生徒同士の交流も活発になり、言語の壁を越えて自然に学級に溶け込むことができました。また、区からポケット翻訳機を借りてからは、Dさんからもコミュニケーションを図り、さらに積極的な関わり合いが生まれました。

次にDさんの姿勢です。Dさんは常に笑顔で接し、話を素直に聞き、何事にも前向きに取り組んでいます。私の拙い英語にも笑顔で接し、理解をしてくれようとしていました。授業では日本語のため分かることの方が少ない中、翻訳をしたり、周りに質問をしたりし、取り組んでいました。日本語の学習にも楽しみながら、とても前向きに取り組め、約半年の指導で日本語への理解がとても上達しました。

生徒・教員をはじめ、周りの多くの方が彼に関わり、彼もそれに応え、学校生活に励んでいます。学級目標をつくる時には彼のアイデアを取り入れたり、合唱コンクールでは指揮者をお願いしたりと、学級の一員として活躍しています。学年行事の百人一首大会では日本語を聞き、日本語の札を自分で取れるようにまで成長しました。この成長に感謝し、今後もDさんと生徒達が相乗効果で学び合い、充実した学校生活の実現に向けて支えていきたいと思っております。

子ども日本語教室

杉並区では、区立小中学校に通う児童・生徒を対象に「子ども日本語教室」を開催しています。

●高円寺教室（小学生対象）

高円寺駅前会議室にて

高円寺北 2-5-1 ホテルメッツ高円寺 3 階

毎週月・水曜日 16:15 から 17:50 まで

●済美教室（中学生対象）

済美教育センターにて

毎週火・木曜日 16:30 から 18:00 まで

●対象

○現在、学校で訪問・補充指導を受けている児童・生徒

○訪問・補充指導の指導時間を満了した児童・生徒

○その他、日本語を学びたい児童・生徒

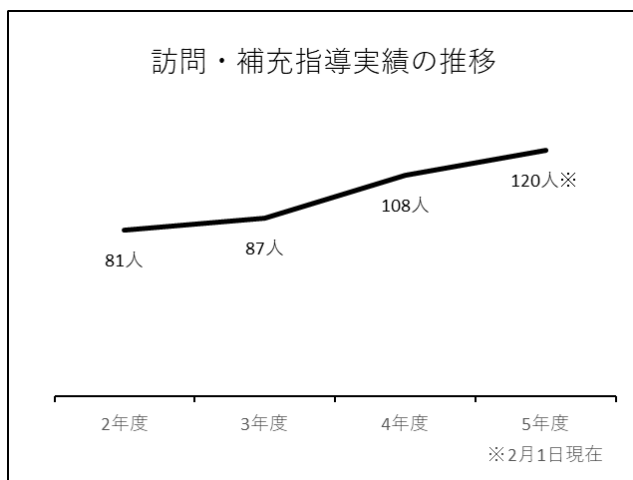


子ども日本語教室は、随時入会できます。詳細は済美教育センター 管理係 荒木・中川まで

令和 5 年度の訪問・補充指導について

区立小中学校に在籍する帰国・外国人児童生徒は年々増加しており、これに比例して日本語指導の需要も増加しています。

済美教育センターでは、学校からの日本語指導(訪問・補充指導)の要請に対し、派遣講師を早期に確定し、児童生徒が指導待ちとならないよう着実に支援をしていきます。



訪問・補充指導のべ人数
2月1日現在

出身国 滞在国	小	中
ネパール	25	16
中国	15	9
日本	6	2
フィリピン	5	2
アメリカ	3	2
モンゴル	3	0
ミャンマー	3	2
オーストラリア	3	0
エルサルバドル	2	2
インドネシア	2	2
ザンビア	2	1
ベトナム	2	
カナダ	2	
タイ		2
ウクライナ	1	
韓国	1	
インド		1
シンガポール	1	
フランス	1	
台湾	1	
イギリス	1	
合計	79	41